

第3回 高山市平和都市宣言検討会議 会議結果

日 時	平成27年11月25日（水）19:00～20:30
場 所	高山市役所 2階 201・202会議室
出席委員 16名 (敬称略)	黒木正之（会長）、元仲しのぶ（副会長）、小林伸子、高桑眞佐子 岡田悦子、谷口律生、池田光彦、谷口津弥子、小林 浩、銅島大衍 住奥久隆、伊藤文子、平塚光明、生田チサト、松原 滋、丸山永二
内 容	<p>○市民意見の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局：中間報告に、10月中に募集していた市民意見689件を加えた。「どんなときに平和を感じるか？」の結果は、前回報告と大きく変わらなかった。「普段の日常」が約48%、「人のつながり・相互理解があるとき」が約30%、「戦争・争いが無いとき」が約12%。「世界の平和を実現するために、何をしたら良いか？」も、大きく変わらなかった。「交流・相互理解・尊重」が約36%、「戦争をなくす」が約23%、「ボランティア・寄付・助け合い」が約9%。 ・委 員：市民意見の募集はこれで一区切りとし、これらの意見をもとに宣言文を作成していく。 ・事務局：文案ができた後、パブリックコメントの実施を予定している。 <p style="text-align: center;">資料1 「高山市平和都市宣言に向けた意見募集について」</p> <p>○市内学校の平和宣言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局：市内学校の平和宣言を収集したので、参考にさせていただきたい。 ・委 員：この宣言は、中学3年生の修学旅行の際のみに考えられたものではなく、子ども達の中学3年間の学習の積み重ねの結果として捉えていただきたい。 <p style="text-align: center;">資料2 「市内学校の平和宣言」</p> <p>○高山市平和サミットの報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局：約500名の方にお越しいただいた。松井広島市長からは、「被爆した思いを誰にもさせたくないというのが被爆者の思い。為政者とそれを選ぶ市民にこの思いを理解してもらいたい。国籍や民族などの違いを受容することが大切。戦後70年間、戦争が無いのは諸先輩方が戦後の思いを受け止め、我々に伝えてくれているからであり、この思いは憲法前文に込められているので、平和宣言作成の際には、憲法を見てお考えいただきたい。そして、自分自身、他人との関係、そして、自分達の生活環境を今後どうするかとい

う観点から考えていただきたい。」と助言をいただいた。

田上長崎市長からは、「一番大事なのは記憶をつないでいくこと。若い世代、子ども達は、考える力、作り出す力があるので、信頼して、しっかりとあったことを伝えていくことが大切。私たちがこのまちから平和をつくるという思いで、平和宣言をつくっていただきたい。」と助言をいただいた。

國島高山市長からは、「平和は、どこかの誰かがやってくれるのではなく、自分達がつくっていくのだという思いが必要。我々が何をするかという意識を持って、行動に移していく一つの規範が平和宣言」との話があった。

- ・委員：長崎市長の話の中で、長崎の高校生の平和活動のスローガンとして、「微力だけど、無力じゃない」という言葉が印象に残った。また、宣言後の行動として、高山市の日本非核宣言自治体協議会への参加を呼び掛けていた。こういうことも大切だと思う。

資料3 「高山市平和サミットの報告」

○作成方針及び自由発言

文案作成手順を資料で確認後、以下のとおり自由発言。

資料4 「高山市平和都市宣言 文案作成手順」

(宣言の位置づけについて)

- ・高山には市民憲章がある。市民憲章の精神を広げれば平和になる。市民憲章を土台として平和宣言を考えるのが良いのではないか。
- ・市民憲章は、高山の憲法のようなもの。平和宣言は、市民憲章を補完する条例のようなものと捉えている。

(高山らしい宣言文とは)

- ・宣言は、戦争や核兵器廃絶を謳うより、観光客が安心してきてくれる平和なまち、明るいイメージを前面に出すのが良いのではないか。
- ・中学生の子ども達の宣言文を参考にしたい。子ども達を中心、子ども達が親しみやすいものにした方が良い。
- ・高山らしさ、飛騨人らしさを持たせるべき。欧米は城壁をつくる文明。日本は対局で、良い面、悪い面もあるが、先に謝る文化。
- ・人と人との絆、飛騨弁の良さ、飛騨人の良さがにじみ出てくるような宣言文にしたい。

- ・平和宣言は、子どもに伝わる優しい文章が望まれる。市民全員が今一度、平和について学べ、なるほどと思える平和宣言にしたい。
- ・市民、日本国民、世界の人々がなるほどと思える平和宣言にしたい。
- ・最初に、戦争、核兵器廃絶を入れて、次の文書でやわらかくすると良いと思う。

(宣言の内容)

- ・大きい平和、足元の暮らしの平和、様々な思いを盛り込む必要がある。
- ・核兵器廃絶を盛り込むべき。平和首長会議は、2020年までに核兵器廃絶を目指している。
- ・「未来につなぐ」という言葉を入れたい。
- ・ユネスコ憲章前文に、「戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信をおこした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。」とある。広島市長も、異なるものを受容することが大切とおっしゃっていた。この考え方を、高山市の宣言に取り入れるべき。
- ・中学生の平和宣言は、小学生からの学習の総括だと思う。子ども達を信じて、伝えていくことが大切。世代ごとに、子ども、大人が何をできるかを整理して、高山らしく、脈々と受け継がれるものにしていきたい。キーワードは「子ども達」
- ・久々野で実施した学生向けの川柳で、今年のテーマは平和だった。「70年、このままずっと何千年」「あたりまえ、普通にしないで感謝して」、「70年、語り継がれる平和への道」、「祖父母が言う、今の幸せ感謝せよ」。子ども達の思い、感性に学ぶところがある。
- ・前の会議で、「心の安らぎを感じる北アルプスの自然を未来に残していきます」との文が頭に浮かんだ。このための努力の中に、平和への取り組みが含まれているから頭に浮かんだと思う。
- ・若いときに、インドへ行ったとき、ハエがたかった子ども達に手を差し伸べることをためらった。今は、なぜ、あの時、ためらってしまったのかと思っている。今なら、ためらわないが、この考えの変化は、今までの経験や学びによるもの。学ぶことが必要。学ばないと分からないことがある。
- ・宣言をすれば、宣言をしたことをやらなくてはならないとの覚悟・責任感が生まれる。

(平和のために大切なこと)

- ・戦争、貧困、差別がないのが平和の大きな条件。
- ・安全な社会、人との絆、人の心を豊かにする文化が大切。
- ・世界の貧困解消のため、教育・学習の機会をつくるのが大切。
- ・生活の基盤である産業の振興が大切。
- ・高山でも3,200余名の戦没者がいらっしやる。高山も、戦争による大きな被害があったとの意識を持つべき。
- ・戦後の苦しかったとき、周りの人の親切に助けられた。
- ・昔の結の助け合いの精神を次世代に引き継いでいくのが大切。
- ・ISの活動と世界の動きを見ていると、今は、第3次世界大戦が始まったのでは思う。歴史から戦争を無くすことは、困難だろう。では、どうするかというと、個人の中にある平和への願いを強くして、こういったことに対応していくのが大切。
- ・フランスでの同時多発テロで夫人を失くしたジャーナリストが、「怒りで応じることは、君たちと同じ無知に屈すること。憎しみに対し、盲目的な愛でこたえる」とおっしゃっている。愛、寛容さがあれば、このような戦争は起こらないと思う。

(発信方法)

- ・世界の人々に発信していくため、高山市の平和の絆の鉦の音を、宇宙（人工衛星）から、世界に人々に発信したい。宇宙から見れば、地球は一つ。ピース・フロム・ユニバースの精神。
- ・子ども達にどのように宣言を伝えていくかが大切。素晴らしい市民憲章は、必ずしも子ども達に浸透しているとは言えない。

(スケジュール)

- ・スケジュール、出口はどうするのか。来年の市制80周年にできればと思う。
- ・来年の市政記念日（11月1日）に完成できていれば一番良い。これには、9月議会にかける必要があるのではないか。
- ・来年の高山市平和の日（9月21日）に完成できれば良いのではないか。
- ・期限を考えず、納得できるものをつくるべき。
- ・ある程度の目途は必要。一応の目安として平成28年3月を文案作成の目標にする。ただし、あくまで目標であって、皆が納得できる宣言を作成することが最優先であり、延長もありうる。（決定）